

市民の生活から生まれ

市民の生活に根づき、

市民の心を育てた祭り

# 鹿沼ぶつつけ秋祭り

静寂の朝

祭りは、町内こぞつての「朝参り」から始まる。

十月体育の直前の土曜、日曜日の二日間、

絆纏に身をつつんだ若衆が、

先人より受け継いだ

豪華絢爛、勇壮優美な彫刻屋台を曳き廻す。

その始まりは、四百年前の慶長十三年夏、

日照りが続いたこの年、

氏子たちは今宮神社に祈りを捧げた。

雨乞いをする事三日三晩、

一天にわかには掻き曇り、激しい雷雨となった。

氏子たちは今宮を靈験あらたかな氏神と敬い、

雨のあがった夕べの六月十九日を宵宮、

二十日を祭礼の日として鉾、榊を出して神徳に感謝した。

今では、氏子三十四カ町が参加する「屋台の繰り込み、繰り出し」や

市内全町あげての「市民祭り」が繰りひろげられる。



朝参りの若衆

彫刻の冴、彩色の妙、漆の美、

屋台の艶やかさは継がれた伝統美

# 鹿沼の彫刻屋台

時を超えて、心を魅了する伝統美が息づいています。

さらに、市内各所で行われる、数台の屋台を寄せ、囃子方の心意気と意地を懸けた

お囃子の競演

「ぶつつけ」

四百年の歴史を誇る

秋の風物詩

江戸の昔から民衆に愛され、

親しまれてきた祭りは、

その心を今も受け継ぐ。

